

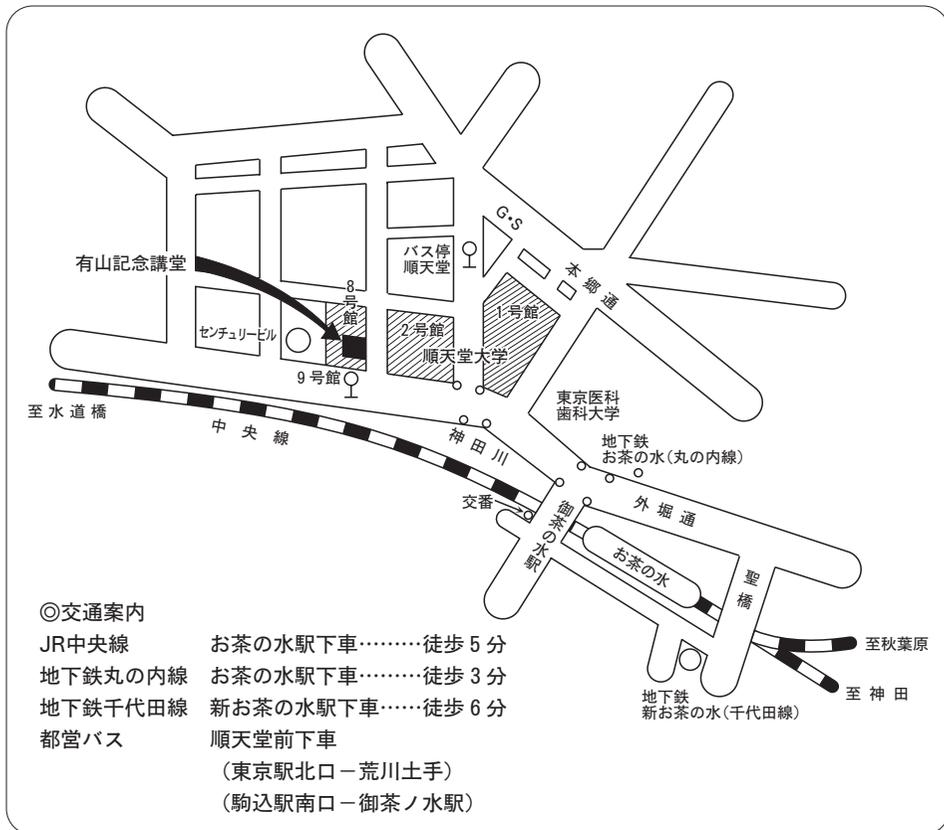
# 第 533 回

## 日本小児科学会東京都地方会講話会

### プログラム

日 時 平成17年10月22日(土)午後 2 時00分

場 所 順天堂大学有山記念講堂



#### 演題の申し込みについて

1. 講話会の当日、文書で提出してください。
2. 抄録(160字内外)をおつけください。
3. 原則として指定発言者をご記入ください。
4. 演者、指定発言者は、当日抄録(200字以内)を提出してください。(日本小児科学会誌掲載の為)

#### 世話人

プログラム係

勝沼 俊雄

東京慈恵会医科大学小児科 03 (3433) 1111

FAX 03 (3435) 8665

会場係

大塚 宜一

順天堂大学小児科

03 (3813) 3111

事務局

03 (5388) 7007

事務局電子メール

shounihifuka@joy.ocn.ne.jp

# 第 533 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1 題 6 分, 指定発言 5 分, 追加討論 2 分以内, 厳守のこと。○印演者)

## 第 1 グループ 14:00—14:25

座長 堀田 秀樹 (社会保険蒲田総合病院小児科)

### 1) 新生児期より筋力低下, 呼吸障害を認めたネマリニンミオパチーの 1 例

○木村夫美恵, 小宮山 馨, 楠本 欽史, 安藤 智暁,  
佐藤 研, 五石 圭司, 高橋 寛, 三牧 正和,  
横山 美貴, 高見沢 勝, 水口 雅, 五十嵐 隆 (東京大学小児科)

患児は 41 週 4 日, 体重 2,684 g 頭位自然分娩の男児。出産時よりミオパチー顔貌, 呼吸障害, 多発性関節拘縮, 筋力低下を認めた。四肢の筋力は比較的保たれていたが, 嚥下は困難であった。呼吸障害が増悪したため生後 5 カ月時に気切, 人工呼吸管理となった。筋生検にてネマリニンミオパチーと診断した。重症型と考えられ若干の文献的考察を加えて報告する。

### 2) 両上肢の間代性けいれんに続発した良性新生児睡眠ミオクローヌス 1 例

○山本 敬一, 菲澤 眞理 (東京都済生会中央病院小児科)

生後 5 日目, 両上肢の間代性けいれんが出現, 脳波で theata pointu altemant を認め, 良性特発性新生児けいれんと診断し PB を開始。生後 15 日目から睡眠時にのみ上肢のミオクローヌスが出現, 脳波で発作性放電は認めず, 良性新生児睡眠ミオクローヌス (BNSM) と診断した。BNSM の診断を中心に報告する。

### 3) 学校で発見された神経性食欲不振症に対する早期介入の効果

○田中 徹哉, 伴 英子, 井ノ口美香子, 徳村 光昭, 南里清一郎 (慶應義塾大学保健管理センター)  
佐藤 明弘, 福島 裕之, 長谷川奉延, 渡辺 久子, 高橋 孝雄 (慶應義塾大学小児科)

神経性食欲不振症 (AN) の早期発見, 治療を目指し, やせ・体重減少を認める女子生徒への積極的介入を行った。まだ AN と診断できない AN 前段階と判断されればやせへの注意を行い, さらに AN 初期と考えられた場合には医療機関での精査を勧めた。T3, E2, IGF-1, ALP が低値であれば運動を制限, やせが進行している中等症では登校を禁止した。これらの早期介入により, 20 例中 18 例で体重減少が食い止められ早期回復に至った。

## 第 2 グループ 14:25—14:55

座長 陳 基明 (日本大学附属板橋病院小児科)

### 4) MRS (MR spectroscopy) が臨床診断に有用であった胚芽腫 (Germinoma) の 1 例

○斉藤 勝也, 劉 美成, 小平隆太郎,  
藤田 之彦, 大久保 修, 原田 研介 (日本大学小児科)  
安達 淳一, 松谷 雅生 (埼玉医科大学脳神経外科)

症例は 13 歳の男児。主訴は左前腕の筋力低下で来院した。MRI では右基底核に直径 10 mm 大の病変を認めた。腫瘍, 梗塞, 炎症性病変等との鑑別が困難であったが MRS により胚芽腫を強く疑い, 生検を行い, 胚芽腫と確定診断した。病変部位が小さく脳腫瘍とその他の疾患との鑑別診断が困難であったが MRS が診断を進める上で有用であったので報告する。

指定発言 井田 正博 (東京都立荏原病院放射線科)

5) 意識消失時 negative pressure pulmonary edema を呈した咽頭血管腫の 13 歳男児例

○上平田 尚, 高橋 寛, 横山 美貴, 渋谷 和彦,  
小野 博, 杉村 洋子, 井田 孔明, 高見沢 勝,  
賀藤 均, 水口 雅, 五十嵐 隆 (東京大学小児科)

左半身と頸部全面に巨大血管腫を認める Klippel - Weber 症候群の 13 歳男児。授業中に突然の意識消失をきたし来院。努力呼吸強く吸気性喘鳴を認めた。胸部 X 線上肺浮腫像があり、咽頭ファイバーで咽頭腔全体を占める血管腫がみられたことから negative pressure pulmonary edema と判断した。意識消失の原因として睡眠障害や一過性脳虚血によるものが考えられた。

6) 乳児期から持続する全身性リンパ節腫脹を認め、溶血性貧血発症を期に最終診断された自己免疫性リンパ増殖症候群 (ALPS) の 4 歳男児例

○下平佳代子, 直井 和之, 内野由美子,  
徳山 美香, 小原 明, 月本 一郎 (東邦大学医療センター大森病院第一小児科)  
笠原 善仁 (金沢大学大学院小児科)

生後 9 カ月時高 Ca 血症で発見され、その後全身リンパ節腫脹、肝脾腫が持続し、IgG 高値、IgM 低値を認めた。悪性リンパ腫を疑いリンパ節生検を 2 回施行されたが、確定診断できず。4 歳時溶血性貧血を発症、末梢血リンパ球の解析で  $\alpha\beta$  鎖陽性、CD 4、CD 8 陰性 T 細胞の増加を確認、ALPS と確定診断した。

休 憩 14:55—15:05

感染症だより 15:05—15:15

座長 山本 光興 (山本小児科)

南谷 幹夫 (東京都医師会感染症予防検討委員会)

教育講演 15:15—15:45

座長 廣津 卓夫 (ひろつ小児科)

予防接種 最近の話題

岡部 信彦 (国立感染症研究所感染症情報センター)

予防接種法施行令の一部を改正する政省令等の改正が、平成 17 年 7 月 29 日厚生労働省から公布された。主な改正点は、

- 1) 平成 17 年 7 月 29 日より、日本脳炎ワクチンの定期接種第 3 期の中止
- 2) 平成 18 年 4 月 1 日より麻疹ワクチン、風疹ワクチンの接種方法、接種スケジュールの変更 (2 回接種法の導入、MR 混合ワクチンの採用)

である。前回の地方会「感染症だより」において、これに伴う定期予防接種の変更について簡単にご紹介したが、今回教育講演としての時間を頂いたので、さらにその背景、実施などについて、知る限りの情報あるいは意見などについてお話し上げる予定である。

### 第3グループ 15:45—16:15

座長 小口 学（東京都立豊島病院小児科）

#### 7) 当科で経験した *H. pylori* 感染症例のまとめ

○千葉 幸英, 工藤 孝広, 寺尾梨江子, 藤井 徹,  
染谷朋之介, 田所里枝子, 荒井 康裕, 大塚 宜一,  
永田 智, 清水 俊明, 山城雄一郎（順天堂大学小児科・思春期科）

対象は02年1月～05年8月の期間に診断した22症例、年齢は3歳～19歳、男女比は10:12であった。主訴は腹痛15例（68%）、タール便3例、貧血2例、ITP2例など、内視鏡所見は結節性胃炎19例（86%）、十二指腸潰瘍4例、胃潰瘍2例などであった。15例で薬剤感受性を確認した後に除菌療法を行い、全例で成功している。

#### 8) 当院における腸重積115例についての臨床的検討

○絹巻 暁子, 山之上 純, 森田 清子, 小高 学,  
柳原 知子, 和気 彰子, 榊原 裕史, 松岡 典子,  
小鍛冶雅之, 寺川 敏郎, 遠藤 泰弘, 横路征太郎（東京都立府中病院小児科）

腸重積は乳幼児の代表的な急性腹症であり、見逃してはならない急性疾患のひとつである。1998年1月から2005年4月の約7年間に当院小児科で腸重積と診断された症例は115例であった。今回はこれら115例の一般的背景に加え、初回診察で確定診断がつかず見逃したと思われる症例の経緯について検討した。

指定発言 崎山 弘（崎山小児科）

#### 9) 小児における腹腔鏡下脾臓摘出術の有用性

○高橋 翼, 矢内 俊裕, 山高 篤行, 小林 弘幸, 宮野 武（順天堂大学小児外科・小児泌尿生殖器科）  
田尻 孝（日本医科大学第一外科）

近年、小児においても腹腔鏡下脾臓摘出術が普及してきているが、術中出血のために輸血や開腹への移行もしばしばみられる。我々が本法を施行した10例のうち、開腹移行例は2例（術中脾損傷）であったが、術後合併症は認めなかった。十分な合併症防止対策の下では、本法は低侵襲で患児のQOL改善に有用であると思われた。

### 第4グループ 16:15—16:40

座長 岩田 敏（国立病院機構東京医療センター小児科）

#### 10) 無呼吸、低体温で発症したエンテロウイルス71型によると考えられた無菌性髄膜炎の乳児例

○野老 翔雲（東京都立豊島病院研修医）  
斉藤 洋平, 小口 学, 宮田 有里, 南風原朋子,  
栗屋 敬之, 杉田 正興, 高田 昌亮（同小児科）  
鈴木 恭子（順天堂大学浦安病院小児科）

36週2,118gで出生、他院NICUに入院歴のある日齢26男児。哺乳低下、顔色不良あり前医を受診。体温35度台、無呼吸が頻回に出現し紹介入院。気管内挿管・人工換気を要し、一過性に痙攣もみられた。髄液検査で無菌性髄膜炎と診断。便、尿からエンテロウイルス71型が検出された。新生児、乳児期早期の無菌性髄膜炎症例では無呼吸の出現に注意を要する。

## 11) メチシリン感受性黄色ブドウ球菌（MSSA）による多発性化膿骨髄炎の1症例

○池田 次郎, 山口 解冬, 前川 貴伸, 高山ジョーニ一郎

(国立成育医療センター総合診療部思春期診療科)

症例は生来健康な13歳男児、柔道門下生。右膝痛を先行とする発熱と両肩関節痛を主訴に来院した。右肩の皮下膿瘍を合併しており、穿刺吸引液、血液培養からMSSAが検出された。臨床経過、画像検査より右脛骨を原発とし、両肩甲骨に血行感染した多発性化膿性骨髄炎と診断した。基礎疾患の検索を行ったが明らかな免疫不全は認めず、長期の大量抗菌薬治療により軽快した。

指定発言 道端 伸明 (国立成育医療センター総合診療部思春期診療科)

## 運営委員会だより

- 9月の講話会参加者173名、新入会13名(会員数1758名)、ベビーシッタールーム利用者3名。
- 運営委員会では、地方会講話会を活発な意見交換の出来る場にしようと考えております。つきましては、発表される演題に関し、診断や治療で苦慮された点を一枚のスライドにまとめて合わせてご発表頂くよう、ご協力お願い申し上げます。また、指定発言をなるべく取り入れるよう、お願い申し上げます。
- 東京都地方会のスケジュールが順天堂大学医学部小児科のホームページ(下記)に加わりましたのでご参照下さい。その他、地方会の運営などに関し、ご意見、ご希望などございましたら、どうぞご連絡頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。<http://www.timelyhit.ne.jp/ped-juntendo>

なお、10月からの予定は下記の通りです。

第533回 平成17年10月22日(第4土曜日)

11月はお休み

第534回 平成17年12月17日(第3土曜日)

第535回 平成18年1月21日(第3土曜日)

第536回 平成18年2月25日(第4土曜日)

第537回 平成18年3月18日(第3土曜日)

- 12月の教育講演は下記のように決まりました。

12月 古荘純一先生(青山学院大学文学部教育学科・昭和大学医学部小児科)に医師の側から見たアスペルガー症候群についてご講演頂く予定です。

どうぞ、皆様奮ってご参加下さい。

- 日本小児科学会東京都地方会の幹事選挙を平成18年1月に予定しております。幹事に立候補される場合、本年10月の時点で東京都内に勤務されていることが必要です。予め、御了承下さい。

WAKODO

アズレン含嗽液

薬価基準収載

# アズレワン<sup>®</sup>うがい液 1%

(アズレンスルホン酸ナトリウム製剤)



※効能・効果、用法・用量、使用上の注意等につきましては、添付文書をご覧ください。

資料請求先

発売元 **和光堂株式会社**

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-14-3

製造販売元 **株式会社 イセイ**

〒990-2495 山形県山形市若葉町13番45号

05.09

## Computer Presentation をご希望の演者の先生方へ

Computer Projection による発表を受け付けます。ただし Windows のみで下記要領をお願いいたします。Powerpoint 2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは Floppy Disk にて、第1、2グループ発表者は午後1時30分までに、第3グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願いいたします。

## 〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設いたしました。利用ご希望の方は、利用当日の1週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・及び預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べ物・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193

## 演者の先生方へのお願い

一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願いいたします。(原稿は活字もしくはワープロ文字で)